

## ◇各教科等の授業改善に向けた具体的な方策

### 【社会】

<p>■生徒の状況</p>	<p>(1) 話を聞くことやノートをとることなど、基礎的な学習規律の定着がなされている生徒が多い。  (2) 定期テストや小テストに向けて知識を習得するよう、コツコツと努力する生徒が見られる。一方で、知識を活用し自分の意見を主張したり、社会的なテーマに興味関心をもって追究していこうとしたりする姿勢には課題がある。  (3) 学力に関して、幅があり、特に学力下位層の授業参加が難しい。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>(1) 学力下位層に向けて、授業参加を増やす指導が必要である。  (2) 知識を活用し、社会的関心をもって表現活動を行うスキルと意欲の育成が必要である。</p>
<p>■授業改善に向けた具体的な方策</p>	<p><b>1 基礎学力の定着</b>  (1) ワーク、プリント、小テストを活用し、基礎学力の定着を図る。  (2) 資料の提示や発問などを通して、生徒の学習意欲を高め、知識の定着につなげる。  (3) グループ学習等を活用し、自分の意見を構成し主張する力を育成し、社会的な関心を高める。</p> <p><b>2 1を支える家庭学習の推進</b>  (1) 定期考査や小テストに向けた課題の提示をする。また、学力や意欲に応じて学習方法や学習内容の解説を行い、「勉強の方法がわからない」生徒を減らし、家庭学習につなげる。  (2) 授業で日常生活や参考となる本や映画などを紹介し、関心を高めることで家庭学習につなげる。</p> <p><b>3 授業における思考力・判断力・表現力の育成</b>  (1) 授業で、多くの資料にふれさせ、活用し、読み取りやまとめる作業に重点を置く。  (2) 世の中の動きを常に確認することで、社会の変化を敏感に受け止め、自ら考え、判断し、表現する力を育成する。  (3) 知識の教授にとどまらず、題材の社会的意義を深めさせ、自分の意見を書いたり、他者へ話したりするなどして表現力を高める。</p> <p><b>4 3を自ら伸ばしていくための主体性の育成</b>  (1) 家庭と連携し、生徒の身近な題材を出発点に、自分から考える力を高める。  (2) 生徒間、生徒と教員などの中で信頼関係のある人間関係を形成し、学習内容について気軽に意見交換したり、質問したりができるような雰囲気づくりを大切にする。</p> <p><b>5 ICT機器を活用した授業実践例</b>  (1) 基本的な考え方  生徒の思考力・判断力・表現力・主体性の育成を図るために、書画カメラやデジタル教科書、電子黒板等のICT機器を積極的に活用していく。  (2) ICT活用場面  ・写真資料を用意しスクリーン表示することで、生徒が学習内容を共有できるようにする。  ・単元の導入時に、生徒の興味関心を高める教材をパワーポイントで作成し活用する。  ・資料読解の学習の際に、比較等がしやすいように工夫してスクリーンに提示する。</p> <p><b>6 小中一貫</b>  (1) 研修会等で情報交換することで、共通の理解を図り、小学校での社会科の取組を中学校での授業内容、授業改善に生かす。  (2) 小中連携授業を小学校で実施する。生活科・社会科の9年間の継続した学びを踏まえ、授業内容を検討する。</p>